

後継者育成コースの目的

三鷹カウンセリングルーム リバイブは平成10年（1998年）に創設され、2020年には22周年を迎えます。

私、三鷹カウンセリングルームリバイブ代表小島知子は、私事ながら、かねてより糖尿病を患いながらカウンセリングのセッション、講師等々を行なってまいりました。ここ数年はふらつきも多く、現在は杖を使用しての歩行になっております。このふらつきに関しまして、神経内科で精密検査を行ったところ、脊椎小脳変性症という難病であることが分かりました。「1Lの涙」(小説)と同じ症状が、これから少しずつ進行していくものと思われまます。症状の進行を踏まえ、あと2年ほど、70歳までは現状のまま過ごせると仮定し、この2年間でREVIVE式カウンセリング(R式カウンセリング)の後継者を育成したいと思いました。

当初はリバイブを閉めることも考えましたが、せっかくの立地や蓄積されたノウハウがございますので、これらを私だけのものにせず、広くカウンセリングを実践している方や、学びの中で成長している方々にお役立ていただきたいと考えるに至りました。

一人でも多くの方々に**R式の実践と効果力、結果力を伝授**し、広くカウンセリング業界の発展のために寄与していただきたく、この度、「後継者育成」という形でカウンセリング講座を開講することにいたしました。

R式カウンセリングでは、その時々、その現状を見立て、効果のある療法を行うことによって、**新しく生きる、1つ上のステージに上がることができるカウンセリングを目指**しています。これまで、北海道から沖縄まで、日本全国、また、海外からも多くの方がカウンセリングにお越しになり、効果を実感していただいております。

この効果の実感を伴うカウンセリング技法を、みなさまにぜひ受け継いでいただいて、**人間の生存する限り、幸せを感じることができるようお手伝いができるカウンセラー**を育成したいと思っております。

インナーチャイルドワーク、エンプティチェア、前世療法、グリーフワーク等、セラピーの実践力を身につけるための学びは多く、本来であれば2年間で習得できるものではありませんが、プログラムを一つ一つご自分のものにするにより「癒し手」としての成長を手に入れてほしいと思っております。

このまま、リバイブの精神を受け継ぎ、実力のある方々に関わっていただき、後をお願いしたいと思っております。

私も、そののちは会長としてリバイブを見守り、時にはカウンセリングも行い、みなさまのお役に立てればと思っております。

どうぞ、みなさま、時代の流れも感じつつ、これから先の人生、時代のためにも、この学びの機会をご自分だけのものにせず、広く、これからも続く人類のために役に立てるカウンセラーとなり、貢献していただくことをお願いいたします。